



## 地域包括ケアシステムの構築にあたり 介護支援専門員に期待すること

群馬県健康福祉部介護高齢課 補佐(企画係長) 上原 美奈子

現在、医療・介護一括法案が国会で審議され、地域包括ケアシステムへの流れが、より一層加速しています。国が目指すこのシステムは、地域において高齢者のニーズを把握し、在宅における必要なサービスにつなげ、在宅の限界点を引き上げる仕組みです。これはケアマネジメンツの考え方そのものと言え、皆様の日頃の活動の積み重ねで導かれてきたものであります。大きな制度改正と多様なニーズへの対応も必要となる中で、ケアマネジャーに求められるスキルも年々高くなっています。まず、皆様には、医療系、福祉系など基礎となる職種にかかわらず、医療・保健・福祉サービスの知識について分野を横断し更新し続けていただきたいと思います。

また、市町村の役割が強化される中、ケアマネジャーが自ら市町村との関わりを密にすることが大切です。地域ケア会議への参加、地域の課題発見、医療との連携など、地域包括ケアシステムの構築に向けた積極的な取組をお願いいたします。

さて、4月から消費税が8%に上がりました。少しでも出費を抑えたいとまとめ買いに走る人々のニュース映像が記憶に新しいところです。同時に、この税収の使い途は何か、果たして自分の生活や将来はよくなるのか、誰もが大きな関心と期待を持って、先行きを注視しています。

ご承知のとおり、今回の増税の一部は、社会保障と税の一体改革として医療介護改革に投入され、平成27年度から介護保険制度は大きく変わります。制度にかかわる自治体や事業者は、負担をした方々の思いに応えられるケアの提供を目指さなければなりません。

新しい制度が動き出す前の今は、改めて足下をしっかりと見つめ直すよい時期です。ケアプランの作成にあたり、自立支援を念頭に、中立性を保持しつつ、インフォーマルなサービスの積極的な活用に努めるなど、基本に立ち返る姿勢を持つよう心がけることも、自分の仕事のあり方を再確認する一つの方法と考えます。

群馬県介護支援専門員協会の皆様は、地域の高齢者を支える要であります。社会の要請に応え、また利用者側の視点も忘れることなく、ケアマネジメンツの専門職として、引き続き介護保険制度、地域包括ケアシステムの一歩の理解者、推進者として御活躍されることを期待しております。



# 地域医療再生基金事業概要について

会 長 折 茂 賢 一 郎

国の平成24年度補正予算事業における“地域医療再生基金”事業に応募したのが平成25年度当初でした。我々が提案したのは、主に次のような趣旨でした。

1. 多職種が連携・協働するのに必要十分な情報とは何かを検討したい
2. 多職種が共通して理解できる“共通言語（ICF Staging）”が必要なのではないか
3. シームレスな連携とはいうものの、どうしたら実現できるのか
4. IT活用は、見た目は便利そうだが“顔の見える関係づくり”こそ重要なのでは
5. 介護支援専門員の目線から見た医療・介護・保健・福祉の基盤整備をしたい

この提案が見事に認められて、交付決定が正式に届いたのが平成25年末のことでした。平成25年度から27年度までの3年間通算で600万円という補助金事業だったのですが、年度末の2月にはシステム構築事業としてさらに追加の1700万円の交付通知も届きました。当協会が任意団体から脱皮して“一般社団法人”として活動し始めた賜物の一つなのかもしれません。

補助金を受けられた喜びとともに、この事業を達成し、目的を果たさなくてはならないという重責も担うことになりました。事務局も非常勤職員が一名いるだけの団体ですので、会計上の手続きや事業遂行のためにはそれ相応の人手もいります。今後は、今回の事業の目玉の一つでもある“ICF Staging”という評価方法の勉強会も含めて、関係事業所などとの勉強会を重ねていく予定です。本事業にご興味のある会員の皆様、遠慮なく事務局までお問い合わせください。



# [ICF Staging (ICFステージング)]って？

学術研修委員長 安藤 繁

ICF Stagingは、公益社団法人全国老人保健施設協会の研究班が開発した「人間の機能を測定する指標」です。開発の理由は、既存の評価指標（自立度、要介護度、FIM、MDS等々）では、「測定」レベルの科学的な評価ができるものがなく、ケアマネジメントには不便だったからです。

なぜ科学的指標と言えるのかについて説明するには100ページ以上必要になりますので、ここでは示せませんが、皆さまもよくご存知のICF（国際生活機能分類）のコードに基づいているので、世界共通のもので国内はもちろん海外でも高い評価を受けています。なぜなら、厳密な数学的検証を経て妥当性と信頼性が担保されているからです。現に厚労省も強い関心を持って注目し、データ提供を求めています。

要は、人間の機能を移動や食事、整容など14項目に分類して5段階評価をするものです。4段階に区分した行為を「している・していない」で評価すれば5段階評価になりますよね。分かりやすくするためにイラストを用いていますから、TAI方式と勘違いされるかも知れませんが別物です。

人気漫画「もしドラ」で有名になったピーター F ドラッカーは、“You can't manage what you don't measure”（測定できないものはマネジメントできない）と記しています。ICF Stagingを用いれば測定できるので、ケアマネジメントには大いに役に立つでしょう。

これを用いることで専門職による多職種協働が成り立ちますし、介入の効果測定もできます。そして、「自立支援型ケアマネジメント」の強い味方になるのです。

# ケアマネジメント群馬フォーラム XI in 伊香保

## ご案内

実行委員長 佐藤 智昭

ケアマネジメント群馬フォーラムXI in 伊香保も、本年7月13日（日）の開催に向けて毎月実行委員会を開催しております。大会のプログラムについても、一部調整中のものもありますが、具体的な内容がかたまってきました。

午前中の教育講演については、医療法人富家会富家病院 理事長 富家隆樹先生にご講演頂くことは前回報告させて頂きましたが、テーマも、「頑張れケアマネ！ ～明る気持ちになろう、ライジングサン～」と決定いたしました。参加された皆さんが、元気が出て「明日から頑張ろう」そんな気持ちになれる講演会を予定しております。

ランチョンセミナーについては、本大会もエーザイ株式会社様と株式会社ツムラ様のご協力をいただいて2会場で開催します。具体的な内容については、現在調整中です。

午後のセッションでは、8つの事例検討会と1つの座談会を開催します。事例検討会については、①野中方式入門編 ②野中方式実践編 ③見える事例検討会（Ⅰ） ④見える事例検討会（Ⅱ） ⑤老健・ICF方式 ⑥特養・ひとときシート方式 ⑦スーパービジョン方式 ⑧いつでもどこでもできる共に学ぶ事例検討会を開催します。それぞれの概要については、開催案内の中でお知らせする予定です。また、恒例となっております「しゃべり場座談会」については、参加人数によっては、事例検討会とコラボもあるかもしれません。「技術の習得」はもちろん、「元気になれる」そんな大会にしたいと思います。今後、詳細が決まり次第ご案内させていただきますので、皆様、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。7月13日（日）は、皆様のおいでを伊香保温泉「ホテル天坊」でお待ちしています。

# 「理事会・各委員会の報告」

## 理事会

会長 折茂 賢一郎

3月12日の理事会ですが、実は2月18日に予定していたのが県内全域を混乱させた大雪の影響で中止になった関係上、第11回となった次第です。今回は、今年度の決算見込みの様子と平成26年度の予算についての議論が中心でした。これにも関連しますが、平成25年度から27年度に決定された地域医療再生基金事業のシステム開発費が1700万円追加で認められるという情報が入ったために、これらの取り扱いについても協議いたしました。ケアマネジメント群馬フォーラムXI実行委員会からの報告では、赤い羽根募金からの補助金の交付決定などについても報告があり、年度最後の理事会としては珍しく景気の良い議論ができました。

## 総務財政委員会

総務財政委員長 松沢 斉

平成26年度定時総会は6月14日13:30～、場所は新前橋の総合福祉センター8階ホール、記念講演は萬田緑平先生にお願い致しました。一人でも多くの方にご出席頂きますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。25～27年度にかけて実施予定の県からの委託事業の説明や、一般社団法人になって初めての決算報告も聞いて頂きたいところですが、それ以上に萬田先生の講演を聴いて「この仕事の価値」を改めて考える時間を一緒に持てることを期待しております。

## 学術研修委員会

学術研修委員長 安藤 繁

何といっても年度末。大変なことが多く、それは皆さまも同様かと思います。

さて、まずは何より会員の皆さまにお願いがあります。夏から始まる恒例の「ケアマネ受験対策講座」の受講者募集に力をお貸しください。ひとりでも多くの受講者を集めることが仲間を増やすことにつながり、協会の運営に資するからです。どうぞ、よろしく願いいたします。

## 広報情報委員会

広報情報委員長 藤田 東洋子

3月14日、第6回広報情報委員会を開催しました。会報84号の反省会を行い、85号の紙面の検討を行いました。平成26年4月には消費税の引き上げに伴い介護報酬の改定もあり、皆様も新たな単位など混乱をきたしていることと思われます。85号では群馬県より地域包括ケアシステムの構築にあたり介護支援専門員に期待することと題し、ご意見を頂きました。皆様のお役に立てて頂ければ幸いです。

## 伊勢崎支部

連絡先：TEL 0270-40-4209

3月15日（土）、東京福祉大学にて、岡田稔准教授（支部長）による「ICFとアセスメントの視点」をテーマにした研修会が開催されました。ICFの考え方の理解を深め、ケアプラン作成の実践までをご指導いただきました。



私たちケアマネジャーが関わる在宅介護の対象は「社会の中で生活する利用者」です。利用者の生活機能のプラス面に焦点をあて社会参加の現状と実行活動、心身機能に目を向けることが、本来のニーズの発掘であり、生活目標の設定になると教えていただきました。

私たちケアマネジャーが利用者を支援する際の手順は、アセスメント（情報収集、ニーズの把握、課題分析）からはじまりケアプランの作成へと続きますが、特に重要なアセスメントが不十分では真のニーズに応えることが出来ません。

「心身機能・構造(体の動き)」「活動(生活)」「参加(人生)」の生活機能レベルを把握し、それと同時に健康状態や個人・環境因子を確認する大切さを学びました。ケアマネジャーとしての役割を果たすためにも研修会で学んだアセスメントの実践は重要です。

今回の研修会に参加させていただき、アセスメントの視点やケアプラン表記の考え方が大きく変わりました。  
(ケアサービス鶴谷 竹内 宗之祐)

## 吾妻支部

連絡先：TEL 0279-68-4840



3月20日(木)～21日(金)にケアマネ吾妻の会恒例の宿泊研修を開催しました。今回は伊香保温泉「いかほ秀水園」で開催し会員間の交流を深めました。

内容としては、医療法人大和会西毛病院の大石尚先生にお願いし「ケアマネのためのコーチング術」について学びました。グループワークで行い実際にコーチングの演習を何回か実施しました。コ

ミュニケーションのある研修はためになるなと改めて感じました。

今後も、楽しくみんなですべての研修を行っていきたいと思います。

(特別養護老人ホームいわびつ荘 田村 広行)



## 利根・沼田支部

連絡先：TEL 0278-22-8811

3月11日(火) 19時より沼田市保健福祉センターにて、講師に沼田エフエム放送株式会社、関宏美氏をお迎えし、「コミュニケーション力アップセミナー」～聞き上手の流儀～をテーマに支部研修会を開催しました。2月の大雪で除雪された雪の山があちらこちらにみられる寒い中、58名が参加されました。講義と共に、参加者全員が、話し手、聞き手、二人一組になり、聞き上手のポイントである態度と技術(うなずく、あいづち、共感のあいづち、繰り返し、感想の一言、質問)について実際に行い学びました。聞き手、話し手(3分間)を何度も繰り返し、あっという間の1時間30分の研修会は基本を学び直す貴重な時間でした。また、すぐに実践してみようと活力を与えられた研修会でもありました。

(花の苑ケアプランセンター 深代 京子)

## 渋川圏域支部

連絡先：TEL 0279-56-9201

3月19日(水) 18:30～吉岡町文化センター視聴覚室において『緩和ケアの実際』というテーマで定例会を行いました。

### 事例紹介

NPO法人 在宅福祉かんわケア大地 居宅介護支援事業所さくら

管理者 新井 薫氏

- ・医療、介護、生活すべての面においてご本人・ご家族の身体・精神をチームで支える。(特にご家族の支えを考慮することが在宅緩和では大切)
- ・退院から在宅へ移行のスピードが重要。そのために柔軟な対応ができるよう、各事業者との連携やケアプラン作りを、先を見越して構築しておく。また、事業者が動きやすいように行政とのやり取り等、直接サービスを提供しないケアマネならではの動きに徹する。(役所への申請は、事業所の事務員が行い、その間にケアマネは、ご本人・ご家族の下へ)
- ・ネットワークは、強力な社会資源。

### ネットワークの紹介

西群馬病院 医療福祉相談室室長 尾方 仁氏

- ・『在宅緩和ケア渋川』の発足から現在の活動状況の説明。

自分の最期を在宅であれ、病院であれ、自由に選択できるようにネットワークをしっかりと構築し、啓蒙していきたい。

その後、お二人への活発な質疑応答へ展開しました。次年度さらに深めていきたいと思えます。



(特別養護老人ホーム清流の郷 村上 忠明)

# 事務局からのお願い

## 会費納入について

平成26年度会費のお振込がお済みでない方は、お手数ですが下記口座にお振り込みをお願いいたします。当協議会は会員の皆様の会費で運営しております。

より良い会を目指して役員・支部長・委員等頑張っております。是非ご協力の程をよろしくをお願いいたします。

会費振込先

取扱銀行 ゆうちょ銀行

口座番号 00540-0-63399

口座名 一般社団法人群馬県介護支援専門員協会

\*\*\* 他金融機関からの振込用口座番号 \*\*\*

〇五九(ゼロゴキュウ)店 (059) 当座 0063399

金額

- 1 一般社団法人群馬県介護支援専門員協会会費 4,000円
- 2 日本介護支援専門員協会&群馬県介護支援専門員協会会費 9,000円
- 3 賛助会員 1口5,000円を2口以上でお願いいたします。

\*いずれも継続会員様の年会費金額です。

新規入会をご希望の方は本会事務局にお問い合わせください。

## 会費を納入下さる皆様へのお願い

お振込いただく振込用紙の依頼人の覧に、必ずご自身の住所・電話番号・お名前をご記入下さい。

せっかく会費を納入いただきましても、お名前が未記入の場合、入金のお手続きができなくなってしまいます。

## 会員登録に変更のある皆様へ

住所変更・勤務先変更等のある方また退会希望の方につきましては、本会ホームページより《事務局から→変更届（こちらから）・退会届（こちらから）から用紙を印刷してFAXまたは郵送をお願いいたします。

一社) 群馬県介護支援専門員協会事務局 (群馬県社会福祉協議会 地域福祉課内)

TEL 027-255-6226 FAX 027-255-6444

事務担当 伊藤

## 編集 後記

厳しい寒さから一気に解き放たれたような開花を経て、はや薫風の5月。年を重ねるごとに時の流れが速くなっていくのは、私だけではないようです。楽しいことを待ちわびていた子どもの頃、時はゆったりと流れていました。大人になると、仕事という宿題に追われる毎日！待つ身と追われる身の違いが時間感覚を変えてしまうのでしょうか。「もういくつ寝ると～」と指折り数えてまつような楽しみを持ちたいですね。(KR)